

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第50週の発生動向

### トピックス

・**インフルエンザ(定点把握対象)**：第50週(12/11~12/17)の定点当たりの報告数は13.6と、今シーズン初めて流行注意報基準値(10.0)を上回りました。昨シーズンと比較して4週間早くなっています。詳細後述。

### 全数報告の感染症(50週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核5例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：つつが虫病7例。5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症1例、梅毒1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	10歳代	男	肺結核	咳、痰
			90歳代	男	結核性胸膜炎	咳、痰、呼吸困難
		延岡	50歳代	女	無症状病原体保有者	—
			60歳代	男	疑似症患者	喀血
		日向	50歳代	男	無症状病原体保有者	—
4類	つつが虫病	宮崎市	60歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			60歳代	女	—	刺し口、発疹
		都城	70歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			70歳代	男	—	発熱、刺し口、発疹
		日南	70歳代	女	—	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹
			30歳代	男	—	発熱、発疹
		小林	80歳代	女	—	頭痛、発熱、発疹、食欲不振
5類	侵襲性肺炎球菌感染症		都城	0~4歳	女	—
		梅毒				

### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,534人(定点当たり36.4)で、前週比131%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は手足口病とRSウイルス感染症である。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【インフルエンザ】

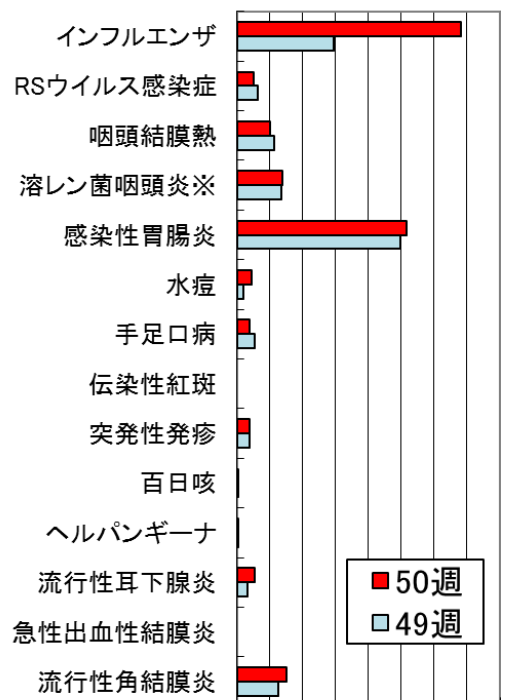
報告数は803人(13.6)で、前週比231%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値\*(1.3)の約11倍である。日南(38.0)、宮崎市(18.3)、都城(12.0)保健所からの報告が多く、年齢別は5~9歳が全体の約4割を占めた。

##### 【感染性胃腸炎】

報告数は372人(10.3)で、前週比104%とほぼ横ばいで、例年同時期の定点当たり平均値\*(21.8)の約0.5倍である。小林(23.7)、都城(14.3)、日南(13.3)保健所からの報告が多かった。年齢別は別グラフに示す。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

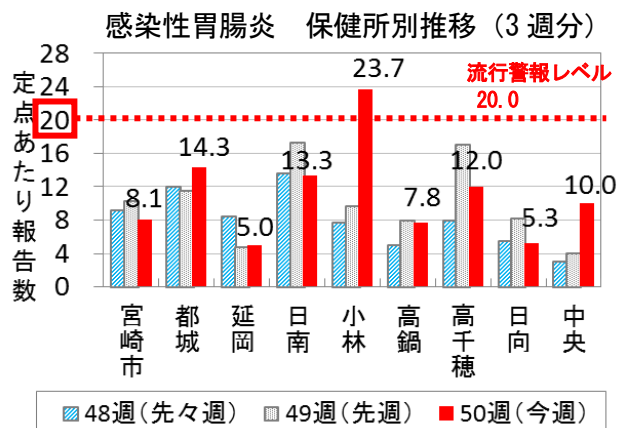
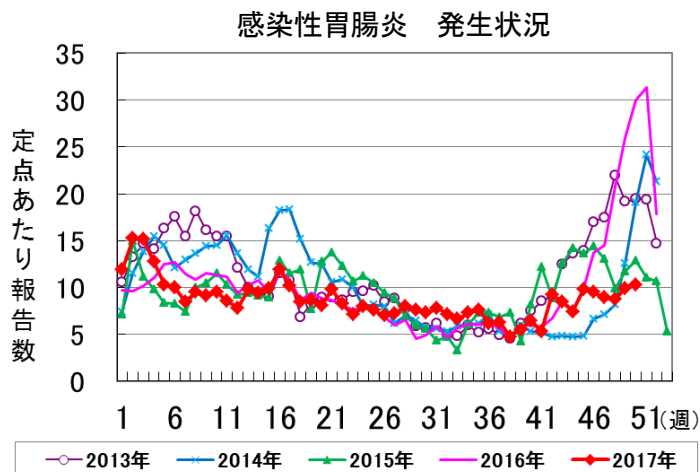
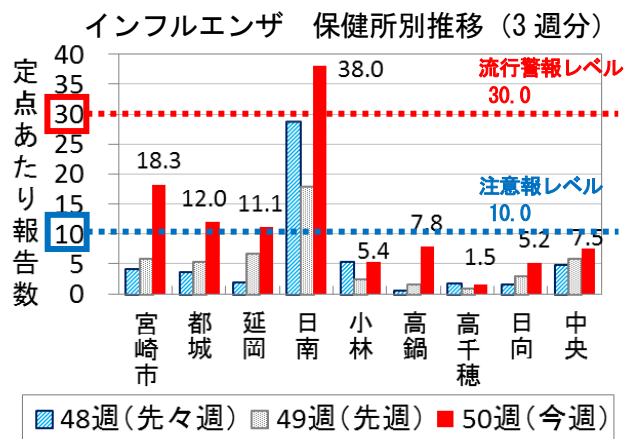
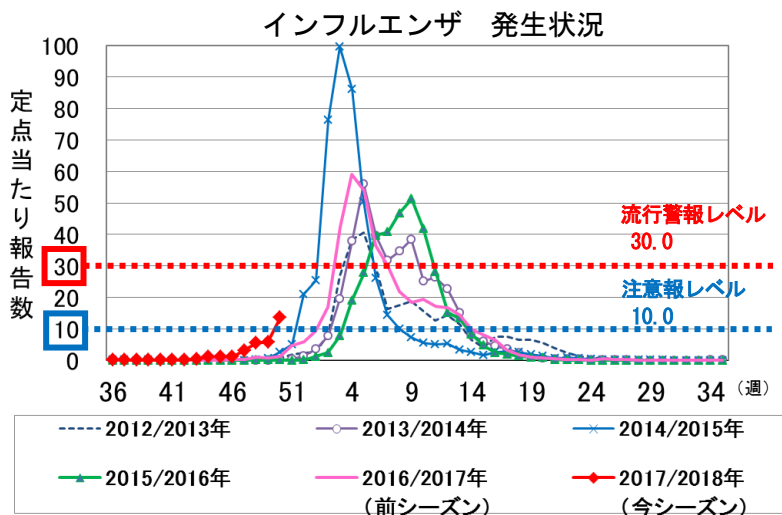
《前週との比較》



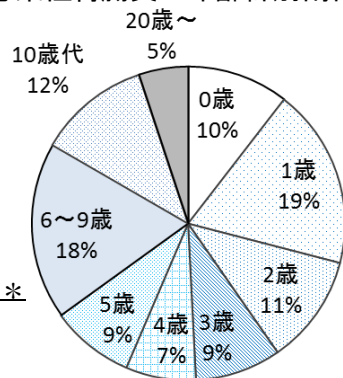
0 2 4 6 8 10 12 14 16

定点あたり報告数

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



### 感染性胃腸炎 年齢群別割合



★基幹定点からの報告★  
報告なし。

### ★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(18.3)
都城	インフルエンザ(12.0)、咽頭結膜熱(3.2)
延岡	インフルエンザ(11.1)
日南	インフルエンザ(38.0)、流行性耳下腺炎(11.7)
小林	咽頭結膜熱(7.0)、感染性胃腸炎(23.7)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	咽頭結膜熱(3.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

※流行注意報レベル基準値※

- ・インフルエンザ(10.0)

### □病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 29 年 12 月 18 日までに検出)

#### ★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4:d:1,7)	30歳代	女	2017.11.28	—	便	2017.12.07
<i>Neisseria meningitidis</i> (血清群不明)	20歳代	男	2017.11.28	排尿時痛	尿	2017.12.13
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	40歳代	女	2017.12.07	上気道炎	咽頭ぬぐい液	2017.12.18
EPEC(O157:H40)	30歳代	女	2017.12.09	無症状	便	2017.12.15
<i>Entamoeba histolytica</i>	20歳代	女	2017.12.13	下痢、血便、腹痛	便(洗浄液)	2017.12.14

○20代後半の女性から赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) が検出された。赤痢アメーバは、消化器症状を主とする腸管アメーバ症や腸管以外の臓器に病変を形成する腸管外アメーバ症を起こす。検出には、赤血球を食食する栄養型の証明が“Gold Standard”であるが、水との暴露などによって速やかに死滅するため迅速な鏡検が必要である。また、病原性がない *Entamoeba dispar* との鑑別は形態学的に困難であり、シストのみが観察される場合などには、PCR法も有効である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
エコーウイルス9型	0～4歳	男	2017.10.30	エコーウイルス、37.7℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.12.08
ライノウイルス	0～4歳	男	2017.11.28	咽頭炎、39.0℃、上気道炎(咽頭炎)	鼻汁	2017.12.14
RSウイルス	0～4歳	男	2017.12.12	肺炎、尿崩症、38.0℃、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2017.12.14

○呼吸器症状のある乳児2名のうち、1名からライノウイルス、1名からRSウイルスが検出された。全国の呼吸器症状を起こすウイルスの分離・検出状況を見ると、インフルエンザウイルス以外ではライノウイルス、RSウイルスの検出が多くなっている。当所では、2017年10月以降、呼吸器症状を呈する患者からライノウイルス6件、RSウイルス3件が検出されており、そのうち各2件は1歳未満の乳児からの検出となっている。

🇯🇵 全国 2017 年第 49 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 49 週)

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	345 例			
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	17 例	
4類感染症	E型肝炎	2 例	A型肝炎	2 例	エキノコックス症 1 例
	ジカウイルス感染症	1 例	つつが虫病	40 例	デング熱 3 例
	日本紅斑熱	1 例	レジオネラ症	21 例	
5類感染症	アメーバ赤痢	18 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 20 例
	急性脳炎	9 例	クリプトスポリジウム症	7 例	クロイツフェルト・ヤコブ病 8 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12 例	後天性免疫不全症候群	28 例	ジアルジア症 1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	49 例	梅毒 77 例
	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	1 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症 2 例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 114%と増加した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は水痘とヘルパンギーナである。

インフルエンザの報告数は 20, 127 人(4. 1)で前週比 157%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(1. 9)の約 2. 1 倍である。長崎県(10. 5)、沖縄県(7. 1)、大分県(6. 8)からの報告が多く、年齢別では 5～9 歳が全体の約 4 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 24, 683 人(7. 8)で前週比 113%と増加したが、例年同時期の定点当たり平均値\*(13. 8)の約 0. 6 倍である。大分県(14. 8)、愛媛県(13. 3)、東京都(12. 7)からの報告が多く、年齢別では 1～4 歳が全体の約半数を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 9, 707 人(3. 1)で前週比 107%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(2. 5)の約 1. 3 倍である。鳥取県(7. 3)、北海道(5. 9)、山形県(5. 6)からの報告が多く、年齢別では 4～6 歳が全体の約 4 割を占めた。

\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

## 📊 月報告対象疾患の発生動向 <2017年11月>

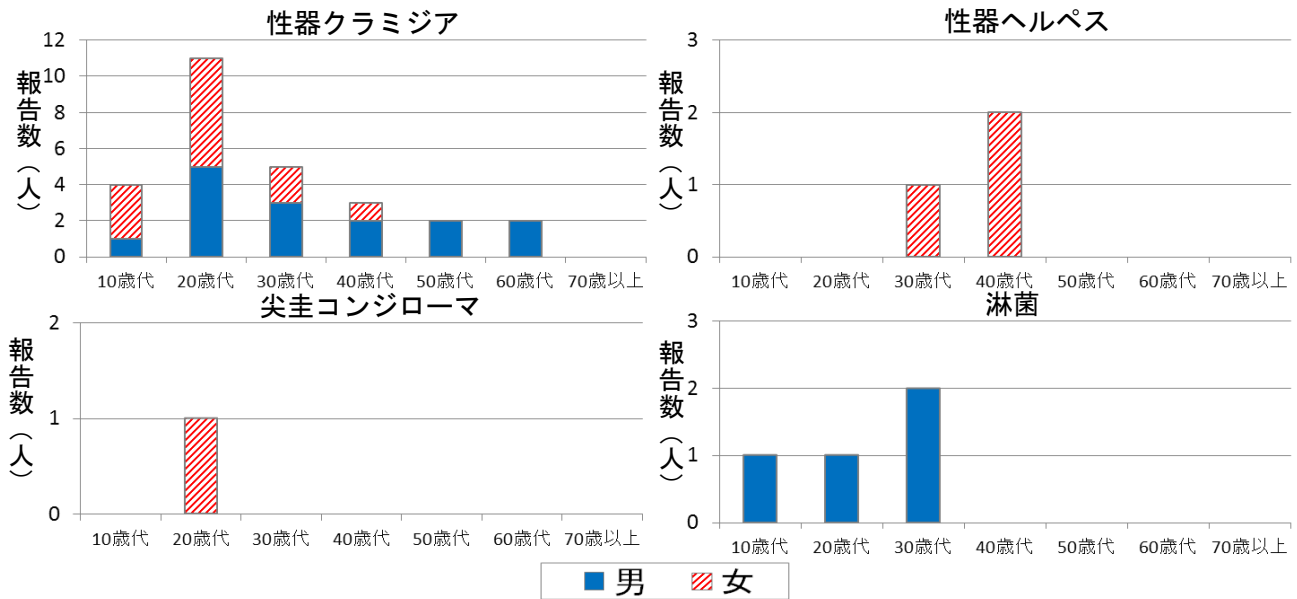
### □性感染症

**【宮崎県】 定点医療機関総数：13**

定点医療機関からの報告総数は35人(2.7)で、前月比85%と減少した。また、昨年11月(2.2)の約1.2倍である。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数27人(2.1)で、前月とほぼ同率、昨年11月の約1.6倍である。20歳代が全体の約4割を占めた。(男性15人・女性12人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月の0.3倍、昨年11月の約0.6倍である。40歳代が全体の約7割を占めた。(女性3人)
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月と同率、昨年11月の約0.5倍である。(女性1人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月と同率、昨年11月の約0.8倍である。(男性4人)



**【全国】 定点医療機関総数：983**

定点医療機関からの報告総数は3,826人(3.9)で、前月比92%と減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,975人(2.0)で前月比88%、性器ヘルペスウイルス感染症722人(0.73)で前月比90%、尖圭コンジローマ453人(0.46)で前月比102%、淋菌感染症676人(0.69)で前月比97%である。

### □薬剤耐性菌

**【宮崎県】 定点医療機関総数：7**

定点医療機関からの報告総数は25人(3.6)で前月比93%と減少した。また昨年11月(3.0)の約1.2倍である。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数25人(3.6)で、前月の約0.9倍、昨年11月の約1.2倍である。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

**【全国】 定点医療機関総数：475**

定点医療機関からの報告総数は1,511人(3.2)で、前月比98%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,347人(2.8)で前月比97%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症151人(0.32)で前月比103%、薬剤耐性緑膿菌感染症13人(0.03)で前月比150%である。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2017年 第50週(12月11日～12月17日)

疾病名		第49週	第50週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	347	803	292	120	78	190	27	47	3	31	15
	定点あたり	5.88	13.61	18.25	12.00	11.14	38.00	5.40	7.83	1.50	5.17	7.50
RSウイルス 感染症	報告数	46	37	16	4	1			8		6	2
	定点あたり	1.28	1.03	1.60	0.67	0.25	0.00	0.00	2.00	0.00	1.50	2.00
咽頭結膜熱	報告数	81	74	22	19	4	2	21	2		1	3
	定点あたり	2.25	2.06	2.20	3.17	1.00	0.67	7.00	0.50	0.00	0.25	3.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	98	100	35	13	15	5	3	2	4	19	4
	定点あたり	2.72	2.78	3.50	2.17	3.75	1.67	1.00	0.50	4.00	4.75	4.00
感染性胃腸炎	報告数	358	372	81	86	20	40	71	31	12	21	10
	定点あたり	9.94	10.33	8.10	14.33	5.00	13.33	23.67	7.75	12.00	5.25	10.00
水痘	報告数	14	32	11	3	4	4	4	5		1	
	定点あたり	0.39	0.89	1.10	0.50	1.00	1.33	1.33	1.25	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	40	27	12		4	4	1	4	2		
	定点あたり	1.11	0.75	1.20	0.00	1.00	1.33	0.33	1.00	2.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	29	27	7	3	4	2	1			5	5
	定点あたり	0.81	0.75	0.70	0.50	1.00	0.67	0.33	0.00	0.00	1.25	5.00
百日咳	報告数	2	1	1								
	定点あたり	0.06	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	4	3			2	1					
	定点あたり	0.11	0.08	0.00	0.00	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	24	40	2	3		35					
	定点あたり	0.67	1.11	0.20	0.50	0.00	11.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	15	18	12	2	4						
	定点あたり	2.50	3.00	4.00	1.00	4.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～50週)

2類感染症	結核	188例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	17例				
4類感染症	E型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	13例	つつが虫病	29例(7)
	日本紅斑熱	8例	レジオネラ症	9例	レプトスピラ症	2例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	11例
	急性脳炎	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例
	後天性免疫不全症候群	11例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	15例(1)
	水痘(入院例)	2例	梅毒	17例(1)	播種性クリプトコックス症	1例
	破傷風	5例	麻しん	1例		

( )内は今週届出分、再掲